

【農山漁村振興交付金】

地域活性化対策 活動計画策定事業 事例集



令和3年11月
農林水産省

趣 旨

農村地域においては、人口の減少・高齢化、社会インフラの老朽化等に伴い、地域コミュニティを維持することが困難な集落が増加しています。

こうした集落が存続していくためには、地域の将来像を策定するとともに、地域住民が主体となった活動を行うなど地域ぐるみの組織化を図る必要があります。

都市農村共生対流及び地域活性化対策（平成28年度）、地域活性化対策（平成30年度）（「以下、本対策」）で採択された地区においては、このような状況を踏まえ、農山漁村の活性化、自立及び維持発展を推進するため、地域住民が主体となった地域の活動計画づくり等の取組に対して支援を行い、令和2年度に事業が完了しました。

各地区では、地域住民が主体となり、地域の活動計画の作成や地域全体の維持・活性化を図るための体制構築等、農村地域の維持・活性化を目指した取組を実践してきました。その取組内容を振り返ると、多様な組織との連携、地域住民の生活支援、地域の魅力発信、都市農村交流の取組、若者の参加促進など、本対策を通じて様々な地域課題に対応した取組が発展してきています。

このため、令和2年度に事業が完了した地区のうち10地区について、取組の内容、取組の効果を事例集としてとりまとめましたので、地域活性化に係る取組の参考として頂ければ幸いです。

お問合せ先

農村振興局農村政策部都市農村交流課
担当：藤田、根井
代表：03-3502-8111（内線5451）
ダイヤルイン：03-3502-5946

目 次

頁	事業実施主体名	多目的 な拠点 の存在	多様な 組織と の連携	地元住民 の支援	地域の魅 力発信	都市農 村交流 の取組	若者へ の支援	事業継続 への組織 確立
1	旭正・東旭川地域活性化推進協議会 (北海道旭川市)	—	●	●	—	●	●	—
2	上野原長寿の里協議会 (山梨県上野原町)	—	●	●	●	●	—	—
3	尾呂志地区活性化プラン推進委員会 (三重県御浜町)	—	●	●	●	—	—	—
4	葛城山麓地域協議会 (奈良県葛城市)	—	—	●	●	—	—	—
5	ソーシャルタウン今金町推進協議会 (北海道今金町)	—	●	●	●	—	—	—
6	かるまいシリアルブランド化女性推進協議会 (岩手県軽米町)	—	●	●	●	●	—	—
7	色川住みよい村づくり協議会 (和歌山県那智勝浦町)	—	—	●	●	●	—	—
8	しょうおう農泊推進協議会 (岡山県勝央町)	—	●	—	●	●	—	—
9	鞍岡未来づくり協議会 (宮崎県五ヶ瀬町)	—	●	●	—	—	—	—
10	西原町観光まちづくり協議会 (沖縄県西原町)	—	●	—	●	●	—	—



目指す 将来像

地域住民が主体となり、地域資源を活用した地域の魅力を発信し、都市部から移住者等が訪れたい地域を目指す。



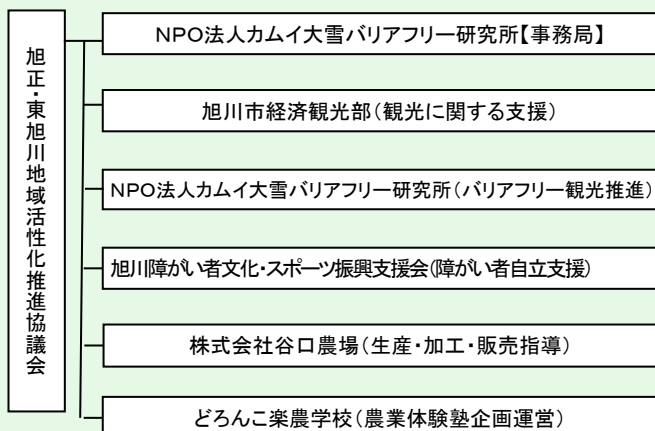
地域の将来像づくり（ワークショップ）



地区の現状・課題

- 農業担い手の高齢化と減少
- 地域農業における経済環境の脆弱
- 求められる食の安全・安心に対応する地域生産体制の構築
- 農業・農村を理解してくれる都市部住民とのコミュニケーション構築

体制図



課題に対する主な取組

イベント開催

- 地域障がい者の提案によるグリーンツーリズムの実施
- バリアフリー観光を組み込んだグリーンツーリズムの試行



- 交流人口は確実に増加し、住民との交流促進に繋がる
H28 2,914人
↓
R元 5,197人

農業支援

- 障がい者にとって合理的で就農可能な栽培・加工システムの構築
- 地域障がい者の就農スキルアップ訓練
- イベント・直売所での販売訓練
- ハーブ苗栽培の実績から高速道路パーキング公園用の苗栽培



- R2農業短期従事者（延べ人数）
野菜関連：150人
ハーブ：100人
高福連携：200人

情報発信

- SNSを通じてイベント・直売・栽培・収穫・就農について発信



- R2: SNSフォロアー数は573人、ページいいねの数11,463となり関係人口の創出に寄与

2 うえのはら 上野原長寿の里協議会【採択年度：H28 実施期間：5年】



山梨県上野原市

目指す将来像

地域住民が主体となり、様々な課題の解決に挑戦し、地域住民も移住者も共に暮らしやすい地域づくりを目指す。



地域の将来像づくり（ワークショップ）



地区の現状・課題

- バスの減便
- 商店の減少
- 手入れのない樹木による日陰問題
- 将来ビジョンを描き、リーダーシップを発揮してくれる人材が育つことが望まれる

課題に対する主な取組

農林産物の販売・加工

- 芋焼酎販路拡大のためチラシ・幟旗作成
- 特産品雑穀菓子・加工品開発
- フラワーフェスティバル開催
- 遊休農地での雑穀試験栽培
- 舞茸原木栽培試験実施

取組の効果



- 広報誌に商品宣伝を掲載し販路拡大に繋がる
＜売上高＞
H28 872千円
↓
R元 1,100千円

体制図



農山漁村への定住促進

- 農業体験開講
- ふるさとまつりチラシ作成
- ホームページによる情報発信と広報誌作成
- 生活環境維持改善



- 農林業をとoshした交流の中で地域に関心を持つ人が増加

福祉の取組支援

- 交通弱者の足の確保のため地域内多目的循環車の運行



- 利便性の向上により、高齢者の動きが活発になり地域が活性化

※  は、農山漁村で暮らす人々が引き続き住み続けるための取組



目指す 将来像

第1次産業の振興による「地域おこし」と生活環境の向上による「地域づくり」を推進し、豊かでより良い地域社会の構築を目指す。



地域の将来像づくり（地域懇談会）



地区の現状・課題

- 人口減少により限界集落への一途を辿り、定住対策に向けた取組が急務
- 独居高齢者が増加、日常生活サービスの向上と農業収入確保に向けた支援が必要
- 農業者の高齢化、担い手不足、鳥獣被害の拡大により農家の生産力は低下、地域農業の営農継続が課題

課題に対する主な取組

米、新規作物の調査・試験等

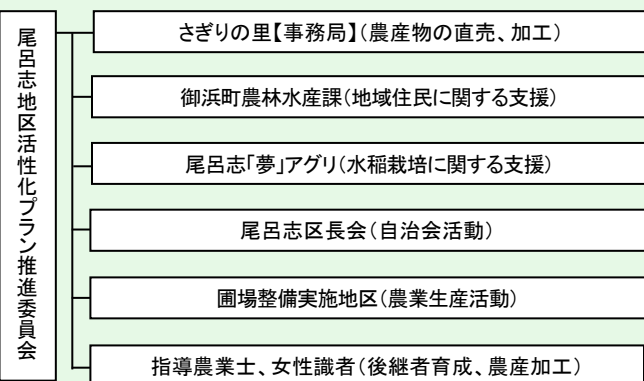
- 新規作物の試験栽培、菜園の獣害防止囲い作成マニュアルの普及
- 食味追及で「売れる米」を目指した土壌分析、食味官能試験を実施
- 郷土料理を活かした新たな加工品の開発

取組の効果



- 売上が減少傾向にあった農産物直売所「さぎりの里」の売上が増加傾向に転じた

体制図



高齢者の生活支援サービス試行

- たい肥散布代行サービス、けい畔管理作業軽減に向けたセンチピードグラス（雑草の侵入を抑える芝）の普及
- 集出荷システムの検討・試行



- 雑草繁殖抑制の成功により、草刈り作業が大幅に減少

活動情報発信の取組

- 地域の農業の歴史や文化を伝える動画をYouTubeで公開
- ホームページ・facebookを活用した地域の魅力の発信



- 地域住民が地域の価値を再認識
- 「尾呂志ファン」の増加

※  は、農山漁村で暮らす人々が引き続き住み続けるための取組

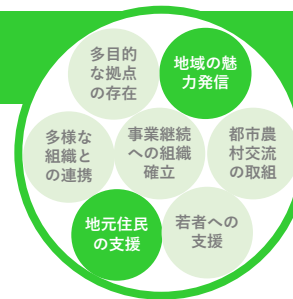


目指す 将来像

寄って、見て、会話して、来訪者も住民も葛城山麓の恵みとともに楽しむ里づくりを目指す。



地域の将来像づくり（住民意向調査）



地区の現状・課題

- 立地を生かし「交流」による農地の活用により、地域の現状と魅力を伝え、葛城山麓のファンとして農の担い手になってもらう人材確保
- 農の多面的機能による福祉への寄与、生きがいを作る機会創出の仕組み構築

課題に対する主な取組

農福連携への取組

- 障がい者受け入れ実践支援
- 障がい者が実施できる農作業メニューの検討
- 障がい者と高校の連携提携のコーディネート
- きくを活用した農福連携



- 地域内の福祉法人への機会創出及び連携強化

取組の効果

体制図



農地・農産物の活用

- 貸農園オーナー制度の検討
- 商品開発
- 体験プログラムの実施（押し花菜づくり等）



- きく押し花を使った御朱印

普及啓発活動

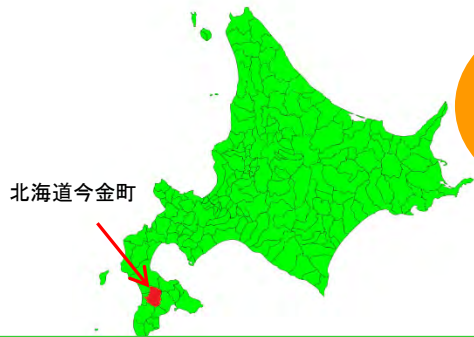
- 葛城山麓ウォークの開催
- 大学等と連携した「わくわく市」の開催



- 大学生の積極的なフィールドワークを展開する環境を創出

※  は、農山漁村で暮らす人々が引き続き住み続けるための取組

5 ソーシャルタウン今金町推進協議会【採択年度：H30 実施期間：3年】



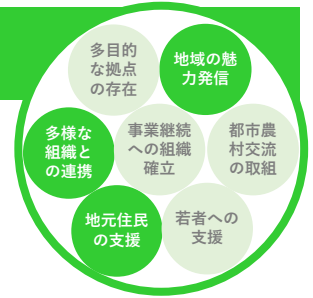
北海道今金町

目指す将来像

地域住民が主体となり、障がい者や高齢者が生きがいを持って働くまち「ソーシャルタウン今金」を目指す。



地域の将来像づくり（ワークショップ）



地区の現状・課題

- 加速する人口減少・少子高齢化・担い手の減少による「準限界集落」化の危機に直面
- 地域経済の疲弊
- 通年で障がい者を雇用する事業所が少ない

体制図



課題に対する主な取組

農家レストラン開設に向けた調査

- 無添加食材のニーズ把握
- 商工会と連携して事業承継マッチング商談会実施
- IUJターン（注）による起業希望者調査



- 事業承継マッチング商談会（訪問形式）により問い合わせもあり今後の可能性に期待できる

障がい者及び高齢者の安定雇用の創出

- 加工施設での実習
- 障がい者雇用に取り組む施設への訪問研修
- 企業での実地研修



- 障がい者及び高齢者の安定雇用を実現（新規雇用8名）

活動情報発信の取組

- ホームページ・facebookを活用した情報発信



- 加工施設への視察受け入れ者数の増加による関係人口の創出

注) Iターン：地方から都市へ、または都市から地方へ移住すること。
Uターン：地方から都市へ移住したあと、再び地方へ移住すること。
Jターン：地方から大規模な都市へ移住したあと、地方近くの中規模な都市へ移住すること。

※  は、農山漁村で暮らす人々が引き続き住み続けるための取組

6 かるまいシリアルブランド化女性推進協議会【採択年度：H30 実施期間：3年】

岩手県軽米町



目指す
将来像

地域の特徴的な資源であるシリアル（雑穀）や養鶏を活用した商品開発等により地域の魅力を発信するとともに、交流の拡大を目指す。



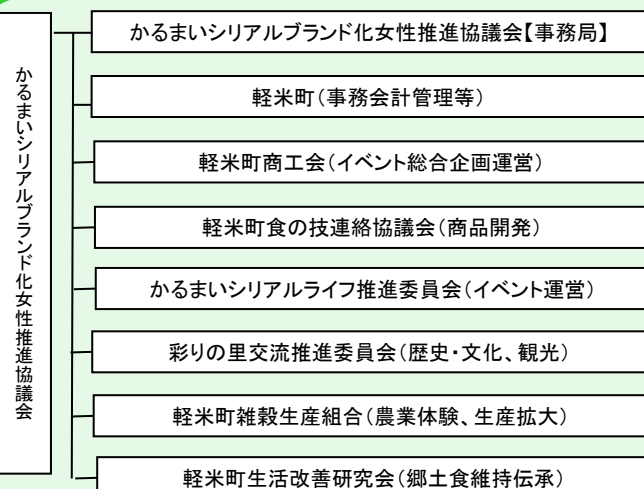
地域の将来像づくり（ワークショップ）



地区の現状・課題

- 人口の減少・高齢化の進行
- 雑穀生産が盛んだが高付加価値化への取り組みが遅れている。
- えごま栽培は機械化体系の取り組みを進めているが、付加価値化への取り組みが遅れている。
- プロイラー産業が盛んだが、地域内での活用方法が開発されていない。

体制図



課題に対する主な取組

女性グループ活動支援

- 商品開発の専門家指導
- 販売ルートの拡充
- 雇用体制構築の検討
- 販売計画の策定

取組の効果



- シリアル、えごま、プロイラーを活用した、軽米町の新しい特産品を開発
- ふるさと納税の返礼品にシリアル加工品が採用

交流イベントの開催

- えごま収穫ツアーでの交流実施
- 食フェスタでの「シリアルガーデンパーティ」実施



- 交流人口の増加や関係人口の創出に貢献

専門家の活用

- 商品開発に関わる調査
- イベント支援
- 各事業者との協議、サポート
- かるまい塾の開催



- 令和2年10月に行われた内閣総理大臣夫妻主催晩餐会において軽米産シリアルを提供

※  は、農山漁村で暮らす人々が引き続き住み続けるための取組



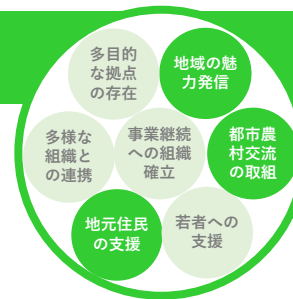
和歌山県那智勝浦町

目指す
将来像

「住みよい村づくり」へつながる取組を展開し、地域の自立及び維持発展を目指す



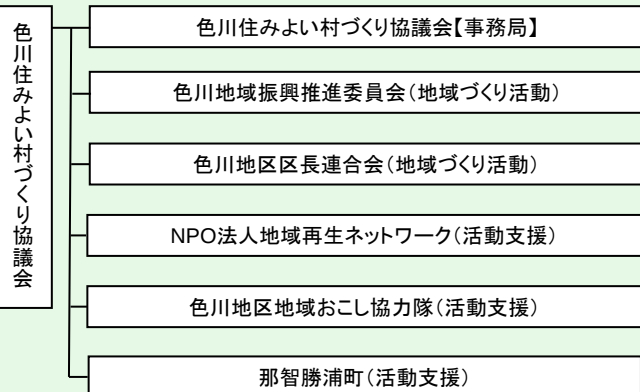
地域の将来像づくり（ワークショップ）



地区の現状・課題

- 移住定住に必要な空き家・空農地の確保が困難
- 農業だけでは生活が苦しいことから、地域内での働く場、雇用の創出が必要
- 色川地区への移住希望の問い合わせ数が減少
- 高齢化や耕作放棄地の増加による獣害被害の深刻化

体制図



課題に対する主な取組

環境整備活動

- 獣害対策、空き家、農地の日照確保による新規移住者獲得へ向けた環境整備
- 林業者高度作業員を活用した環境整備技術の習得



- 集落環境を改善することで、移住・定住に繋がる

空き家対策活動

- 空き家の状況等の確認
- 空き家改修の技術指導等を実施
- 空き家利活用についての体制構築



- 10世帯（27人）が地域に移住

普及啓発

- 地域内情報新聞への取組記事掲載
- HP「ふるさと色川」、インスタグラムで情報発信
- 和歌山大学との連携による普及啓発活動の実施



- インスタグラムのフォロワー数が増加し、サポート体制も強化

8 しょうおう農泊推進協議会【採択年度：H30 実施期間：3年】



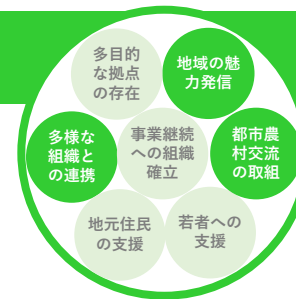
岡山県勝央町

目指す 将来像

京阪神からのアクセスの良さと、地域資源を活用した地域の魅力を発信し、都市部から移住者等が訪れたい地域を目指す。



地域の将来像づくり（ワークショップ）



地区の現状・課題

- 人口流出による空き家・離れの利活用の検討
- 地域農業の魅力化・活性化、農家の直接所得向上策の創出等
- 移住希望者と交流、地域住民の生きがい・働きの創出等

課題に対する主な取組

都市農村交流のための取組

- 先進地視察
- 大学生を対象としたモニターツアー
- 農泊の推進（農業体験メニューの開発等）

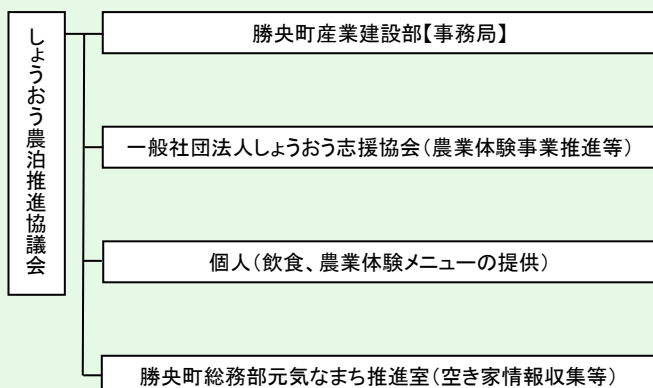


取組の効果



- 農業体験メニュー数の増加（3→16）
- 農泊の商品化（ふるさと納税返礼品に採用）

体制図



インバウンド需要の検証

- 在阪外国人を招聘したモニターツアーの実施
- 体験メニューのブラッシュアップ



- 新規商品を開発
- 地域の新たな魅力の発見に繋がる

情報発信の強化

- モニターツアーを利用したプロモーションビデオの作成
- リーフレットの作成
- 情報発信媒体の管理



- 多様な情報発信による販路拡大
- ターゲットやニーズを捉えた取組に繋がる



宮崎県五ヶ瀬町

目指す将来像

住民主体による活動計画策定と、諸課題解決のための住民主体の活動による地域づくりを目指す。

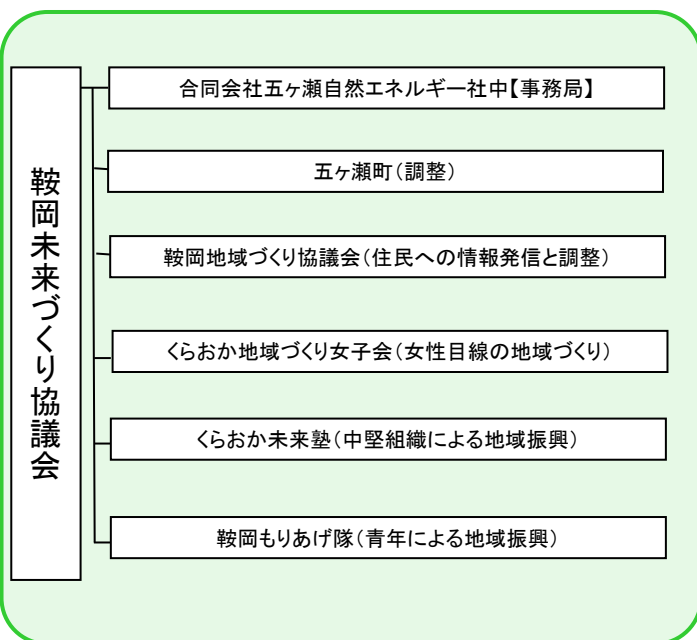


地域の将来像づくり（ワークショップ）

地区の現状・課題

- 高齢化、過疎化に伴い担い手不足による耕作放棄地の増加
- 離農、兼業化が進み生産性、経済性が減退傾向

体制図



課題に対する主な取組

高齢者の居場所づくりと交流活動

- 認知症予防等の活動、町内散策やクリスマス会
- 古着等を再利用したリメイク活動
- 「特産センターごかせ」による巡回販売



取組の効果

- 旧鞍岡中学校施設で月1回の『居場所』づくり活動
- 同活動実施日にあわせた巡回販売による買い物支援

新規作物、新商品の開発

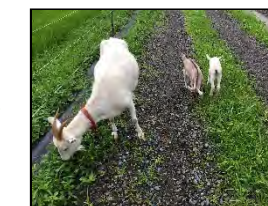
- 伝統的技術を活かしたしめ縄、門松の販売
- 生ごみを活用した堆肥づくり



- 好評を受け希望者向け販売から一般消費者向けに販売
- 生ごみ堆肥化に成功。令和3年度より実証試験開始

休耕地、耕作放棄地の解消

- やぎの放牧
- 草マルチ（雑草防除等の効果）の手法を用いた休耕地、耕作放棄地の復旧実証試験



- やぎ飼育場（元耕作放棄地）は、年間を通して雑草が繁茂しない。
- 草マルチにより雑草の育成、繁茂の抑制に繋がる

※ 〇〇〇 は、農山漁村で暮らす人々が引き続き住み続けるための取組



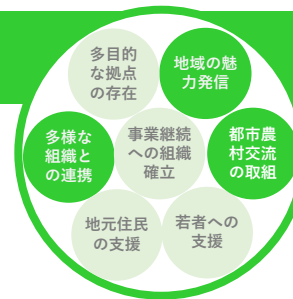
沖縄県西原町

目指す
将来像

地域の人や地域の営みを基調とし、地域社会や地域産業の更なる活性化を目指す



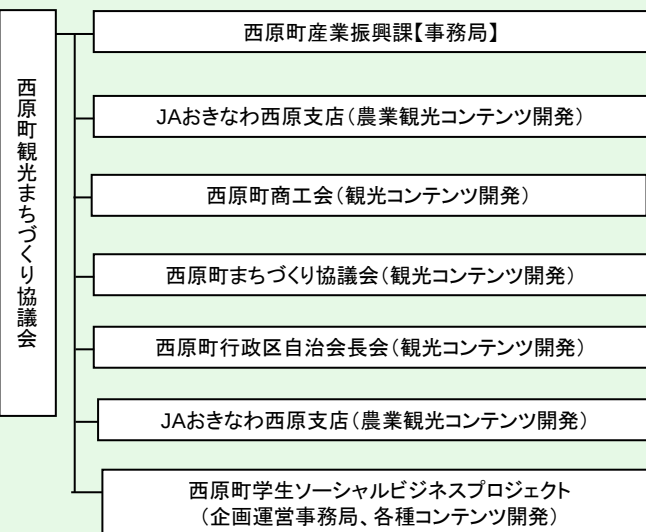
地域の将来像づくり（ワークショップ）



地区の現状・課題

- ビーチの他に観光スポットがなく、県内の海水浴客以外は観光客を誘致できていない
- 観光振興に向けた体制強化が必要
- 農泊等で観光客が滞在できる体制が必要

体制図



課題に対する主な取組

教育民泊

- モニターの実施（民家生活体験）
- 体験メニューの開発
- パンフレットの作成



- 住宅宿泊事業届提出支援により、滞在型観光拠点を創出

市民農園での農業体験

- 農地借用
- 農機具リース
- 収穫体験、料理教室等の実施



- レンタル農園「さわりんガーデンビレッジ」開設による交流人口の増加
H30 223人
↓
R2 3,000人

わくわくワーク

- イベントの実施
- チラシの作成



- 子ども達が農業等の仕事を体験できる人気イベントとして定着し、交流人口の増加に寄与

西原でダイエットプログラム

- プログラムの実施
- チラシの作成
- ダイエットメニューバーベキューの開催



- 琉球大学より講師を招き3か月間のプログラムを開催した。今後体験メニューとして販売する